

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立東文化会館	
(2) 施設の設置目的	
市民文化の創造及び振興に寄与するため設置	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成27年4月1日から令和2年3月31日まで（5年間）	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none">・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること・ホールなどを活用した文化芸術振興事業を行うこと・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと・自主事業に係る業務に関すること	
(7) 有料施設の有無	
有(利用料金制)	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
SAYAKAホール	

2 管理運営状況

(1)特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

近隣の学校、文化団体をはじめとする地域住民や利用者とのコミュニケーションを積極的に図ったり、東区の特徴を生かした公演・展示を開催するなど、地域文化会館として地域貢献に取り組んでいる。

(2)利用者サービス

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	256,208	247,800	234,040	241,542	
利用者数の算出方法	文化芸術振興事業、自主事業、貸館事業等で東文化会館を利用した人数。				
市による状況分析	東文化会館としての特徴ある事業を実施することで、昨年度よりも利用者数が増加した。				
イ 稼働率 (%)	87.9	89.0	89.1	88.8	
稼働率の算出方法	ホール、フラットホール、ギャラリー、生涯学習施設(諸室)等における指定管理者主催事業や貸館事業等による稼働率。				
市による状況分析	昨年度から0.3%減少しているが、今年度の目標値84.0%は達成している。天災等により低下したものと考えられる。				
ウ 利用者満足度 (%)	97.3	97.6	80.4	90.3	
利用者満足度の測定方法	文化芸術振興事業(ホール公演等)の入場者や、貸館利用者に対して実施したアンケート結果。				
市による状況分析	会館職員が利用者に満足してもらえるよう意識を高く持ち、普段の接客や事業内容を見直すことで、利用者の満足度向上につながった。				
(3)管理体制等					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ア 職員数(人) ※各年度4月現在	16	18	18	18	17
イ 職員研修(回) ※令和元年度は予定回数	5	4	6	6	8
ウ 要望、苦情等(件)	0	0	0	0	—
エ 事件、事故等(件)	0	2	0	2	—
市による状況分析	指定期間全体を通して、大きく変化はない。				

(4) 収支状況(単位:円)**■ 指定管理業務**

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	指定管理料	116,416,000	114,988,000	116,168,000	114,148,000	114,710,000
	利用料金	51,787,695	52,460,155	50,867,037	49,607,451	51,450,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	4,576,404	6,779,602	6,116,146	7,619,266	5,875,000
合 計		172,780,099	174,227,757	173,151,183	171,374,717	172,035,000

イ 支出	人件費	50,234,001	53,866,115	59,515,709	60,724,711	64,782,000
	委託料 ()内は総支出額 に占める委託料の割合	67,624,195 (42.1%)	70,682,855 (43.3%)	66,712,925 (39.8%)	68,185,280 (40.5%)	68,907,000 (40.1%)
	修繕費	3,766,257	3,074,413	2,568,441	1,636,124	2,079,000
	光熱水費	21,556,481	20,899,942	22,271,066	21,435,757	20,171,000
	その他経費	17,483,289	14,676,892	16,405,749	16,177,321	16,096,000
合 計		160,664,223	163,200,217	167,473,890	168,159,193	172,035,000
利用者一人当たりの支出額		627	659	716	696	—

ウ 収支差額	12,115,876	11,027,540	5,677,293	3,215,524	0
--------	------------	------------	-----------	-----------	---

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
------------	---	---	---	---	---

オ 徴収委託の場合 の徴収額	—	—	—	—	—
-------------------	---	---	---	---	---

市による状況分析	稼働率の低下に伴い利用料金は減少したものの、文化芸術振興事業の内容をブラッシュアップすることで、昨年度よりも入場料(参加料)収入が150万円程度増加した。委託料のうち施設維持費等の固定費を削減することは難しいが、文化芸術振興事業について、中間業者を介さず直接出演者と交渉することで支出減につながった。
----------	--

■ 自主事業 (有)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	3,339,100	1,909,698	1,507,708	731,600	790,000
イ 支出	5,860,968	3,701,296	1,857,953	1,733,824	1,752,000
ウ 収支差額	-2,521,868	-1,791,598	-350,245	-1,002,224	-962,000

エ 市への納付金の額	—	—	—	—	—
------------	---	---	---	---	---

オ 事業数(回)	19	11	7	7	
----------	----	----	---	---	--

カ 参加者数(人)	2,026	1,311	1,077	947	
-----------	-------	-------	-------	-----	--

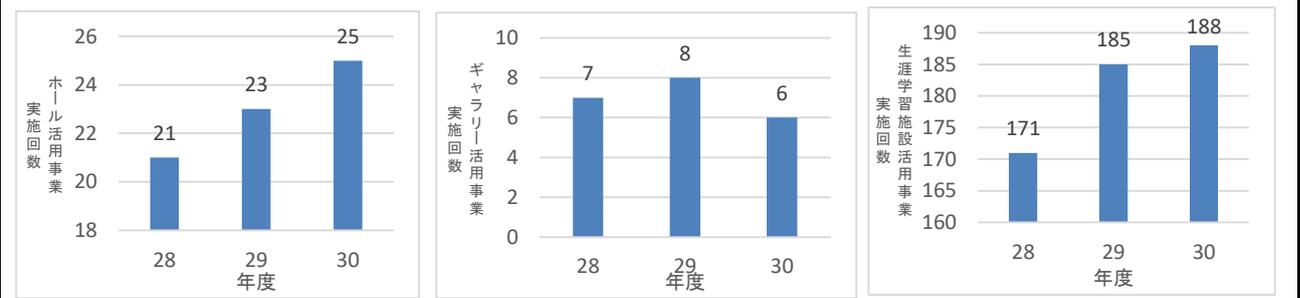
主な自主事業	歌声喫茶、東文化カラオケ発表会、各種文化講座等
--------	-------------------------

市による状況分析	指定期間全体で見ると、事業数が半数以下に減少しており、それに伴い、参加者数も大きく減少している。
----------	--

3 目標管理、評価等

(1) 適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	①ホール活用事業：「鑑賞型」「参加型」「普及型」公演事業の年間実施回数 ②ギャラリー活用事業：年間実施回数 ③生涯学習施設活用事業：年間実施回数	(設定理由) 市民文化の創造及び振興に寄与するための施設としての適正な管理運営の確保を評価する指標であると考えられるため。
	目標	①6回以上 ②3回以上 ③12回以上	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	①25回 ②6回 ③188回	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を大幅に上回った。



平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項	施設の建築年から10年以上が経過し、経年劣化による故障等が発生し10カ所修繕した。本市が工事する場合は、適切に協力し対応した。
---------------------------------------	---

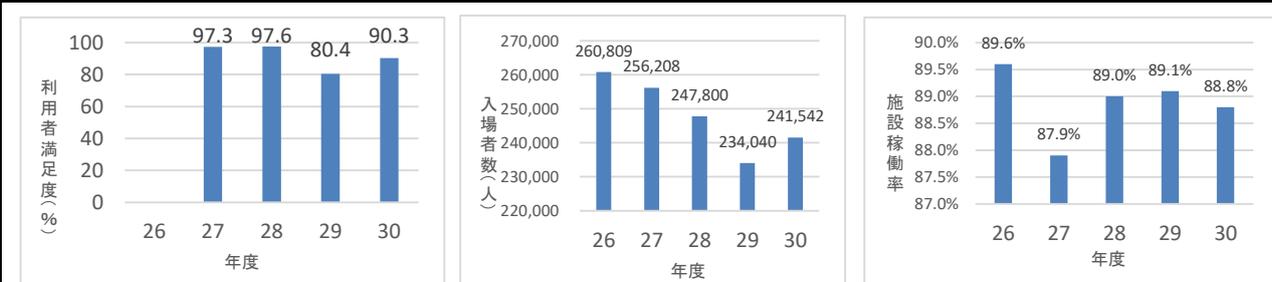
利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし
-----------------------	------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	A		A	
	具体的な理由	①～③の目標をすべて達成している。ホール活用型事業として、鑑賞型18回、参加型3回、普及型4回を実施し、ギャラリー活用事業として、鑑賞型3回、参加型3回を実施した。ギャラリー活用事業では、普及型を実施しなかったわけではなく、参加してもらうことで普及も図れるギャラリーの特徴を活かした事業を展開した。生涯学習施設活用事業では、年間シリーズで陶芸と落語ワークショップを実施した。音楽から古典芸能まで幅広く事業を展開したが、演劇の分野が実施できていないのでそこが課題と考えている。	ホール活用事業、ギャラリー活用事業、生涯学習施設活用事業ともに、市が求める目標を大幅に上回る回数の事業を実施しており、地域の学校や団体と連携して、地域の文化拠点として事業展開できている。		
対応策等	来年度も事業は幅広く実施展開する予定で、課題の演劇については、西野にあった文化村で演劇活動を行っていた新国劇の流れをくむ若獅子会の公演を実施。また子ども演劇フェスティバルと銘打ち、人形劇や演劇のワークショップも含めた事業を実施。	会館の主催事業について、伝統芸能や音楽に偏りがちであったが、全体のバランスを見て再構成できている。			

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80～100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	①利用者満足度 ②入場者数 ③施設稼働率	(設定理由) 施設の利用し易さ、又は施設で行う事業の魅力を反映しやすい指標として考えられるため。
	目標	①90% ②25万人 ③80%	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	①90.3% ②241,542人 ③88.8%	(分析) 利用者満足度、施設稼働率は達成できたが、入場者数は未達成であった。昨年度比で稼働率は下がっているものの、入場者数は増えているので、主催事業等の参加者が減少したことが原因と考えられる。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項	ロビーを活用してのコンサートや自習スペースの提供など新規利用者のニーズに合わせて施設を活用している。
--	--

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	ホール公演等について宣伝が不足しているとの意見を受けて、市広報、財団広報と合わせてフェイスブックを活用したり、「東文化会館便り」の発行回数を増やした。
-----------------------	---

評価等	指定管理者の自己評価	市の評価
	評価	A
具体的な理由	①と③は目標を達成したが、②の利用者数としては8,458人たらずで未達成となった。①については東文化会館に勤務するすべての職員のたゆまぬ努力③については立地条件の良さと職員の努力によるもの。②が課題となる。	①と③については、非常に高水準を維持しているものの②は未達成であった。施設稼働率を高水準に維持するとともに、主催事業等の参加者数を増やすための方策が必要である。
対応策等	東文化会館に勤務するすべての職員が引き続いて館の運営・維持・安全管理に一層の努力をすることにより、会館を身近な存在として感じてもらうことと、主催又は共催事業を増やし、ホールの隙間を少しでも埋めることにより参加人数の増を図ることの2点で利用者増に繋げる。	ホールの稼働率を上げることで、貸館による入場者数を増やすとともに、主催事業の内容をブラッシュアップしたり、様々な宣伝媒体を活用するなどし参加者を増やしたい。

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 指定管理者において営業努力が反映されやすい指標のひとつとして考えられるため。
	目標	49,000千円	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	49,607,451円	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成している。



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項	文化芸術振興事業について、中間業者を介さず直接出演者と交渉することで支出減につなげた。
------------------------------------	---

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応	特になし。
-----------------------	-------

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	B		B	
	具体的な理由	目標は達成し、607,451円の増となった。前年に比べ微妙に稼働率が減ったが、付帯設備費等が増加したため、全体としては目標を達成することができた。	昨年度と比較すると稼働率が若干減少したものの、引き続き高水準を維持している。利用料金収入についても、さらなる増額をめぐされたい。		
対応策等	メイン・フラット両ホールやギャラリーにおいて、魅力的な主催事業を実施することにより会館の価値を高め、来館者数と来館頻度を高め、更なる利用料金収入の増加につなげる。	会館の主催事業を平日に実施するなど、今年度の改善内容を継続することで、メイン・フラット両ホールの稼働率を上昇させるとともに、平日利用の活性化をめぐされたい。			

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの